



第4回

左から坂口俊二、篠原昭二、黄龍祥、形井秀一、Henk Bekedam、任允卿、崔昇勳、李昇徳、譚源生（敬称略）

WHO経穴部位国際標準化特別会議が マニラのWHO/WPROで開催！

—今春、ついにWHO標準経穴部位公式本が出版へ—

2006年10月30日～11月1日、つくば市で開催された「WHO経穴部位国際標準化公式会議」において、1989年に十二正経、経穴などの名称の英語表記を決定した「鍼用語標準化国際会議」、いわゆるジュネーブ会議以降、懸案となっていた経穴部位の国際標準化が実現した。つくば会議後約1年半にわたって、日中韓が中心となり、部位表記の校正と経穴図、および取穴のためのガイドライン作成を行ってきた。

今回は、2008年1月29日～31日の日程で日中韓の代表がマニラのWHO/西太平洋地域事務局（WPRO）に会し、WHO標準経穴部位公式版の出版に向けて

最終的な確認を行った。日本からは第二次日本経穴委員会の形井秀一氏（委員長、筑波技術大学教授）、篠原昭二氏（副委員長、明治鍼灸大学教授）、筆者が参加した。

会期中に懸案事項の議論をすべて終了し、WHO/WPRO 伝統医学諮問官の崔昇勳氏は、公式版の出版時期について、今春を目指すとして力強く宣言した。さらに今後は、中国・韓国の協力も得て、経穴チャートや経穴人形の作成などを推進していくことを表明した（詳細は本文172頁を参照）。

（写真・報告：関西医療大学講師 坂口俊二氏）

会議の最大の目的は、経穴部位を正確に描いた経穴図の確認と同意であった



会議は3台のプロジェクターを駆使して英語で進められた

